

# まとめる技術

**授業例** ここでは、レポートにまとめる技術を紹介します。

**指示例**

1

エネルギーの何について調べてきましたか。テーマをノートに書きなさい。それが「問題文」です。次に、調べて「わかったこと」、すなわち「結論」をノートに箇条書きしなさい。

レポートは説明文です。

説明文の骨格は「問題文」と「結論」です。

そこで、まず問題文と結論の部分だけを確認します。

結論は箇条書きさせます。簡潔に書かせることによって要旨がはっきりしてきます。

これは、資料のまる写しを防ぐ手だてにもなります。

**指示例**

2

調べたテーマを疑問文にしなさい。例えば、「水力発電の仕組み」というテーマだったら、「水力発電では、どのようにして電気を作るのか」とします。次に、その疑問文を読んだ後に続けて、「わかったこと」あるいは「結論の文」を読みなさい。グループの友だちにも聞いてもらいなさい。

問題と結論の部分は、こうして再度確認します。

特にほかの子どもたちに一度聞いてもらうことが重要です。教師の指導が必要な場合もあるので、気になる子のノートは一度目を通します。

**指示例**

3

次は、問題と結論の間の部分を埋めていきます。ここには、聞いてきたこと、見てきたこと、写真、グラフなどの資料を入れていきます。集めた資料をどのような順に並べるかを考えて順に番号を打ちなさい。

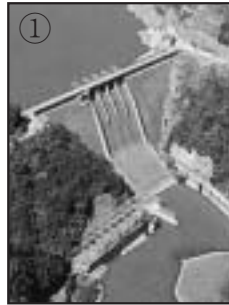
問題文

写真

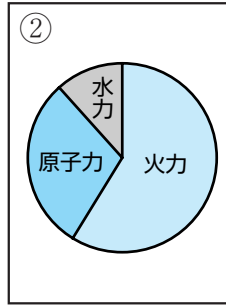
グラフ

聞いてきたこと

結論



「発見！体験！エネルギー環境ウォッチング」25ページより



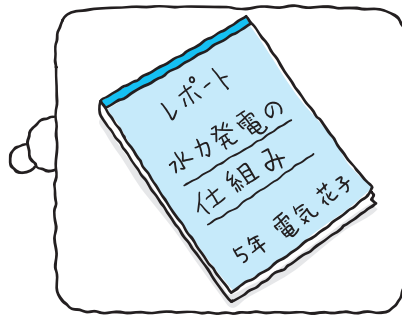
③ 水力発電は水の中で水車を回転させ電気を作る

指示例

4

レポートを書きます。書く順番は次のようになります。

- ① このテーマを調べてみようと思ったきっかけ
- ② どのようにして調べたか
- ③ 聞いてきたこと、見てきたこと、写真・グラフなどの資料からわかったこと（資料や写真は、貼りつけてもよい）
- ④ テーマについて、わかったこと、結論



上のような流れが一般的なレポートの書き方であることを説明します。

もちろん、必ずしもこの流れで書く必要はないことも補説します。

指示例

5

最後に大切なことをいいます。文章を書くときは一文を短くします。一文は50字程度です。

原稿用紙で2行をこえるような文章は書かないようにします。

子どもたちの文章は、一文が長いため、主語と述語の関係がねじれてしまっていることが多いのです。また、接続詞を使ってだらだらと長い文を書く子もいます。一文を短く書くことは、文章を書く上での基本の1つです。レポートを書いている途中で、時々点検して文章を短くするよう注意します。